

【平成27年度第4四半期】学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等について（提案6～12）

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- ・経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
※既に5件決定済（第1～3四半期開催分）
- ・経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- ・土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

	提案番号等	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案6 【P.3～4】	防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承	1月9日（土） 13:00～17:30	日本学術会議 講堂	要	要
2	提案7 【P.5～6】	乳幼児を科学的に育むー発達保育実践政策学の始動ー	3月27日（日） 13:00～17:00	日本学術会議 講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- ・各年度32回まで（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）
※既に15件決定済（第1～3四半期開催分）（日本学術会議主催学術フォーラムを含み、開催取り止めになったシンポジウムを除く）
- ・四半期ごとにおおむね8回（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

	提案番号	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名
1	提案8 【P.7～9】	強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤ーあなたの足元は大丈夫？ー	1月23日（土） 13:30～17:30	地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、土木工学・建築学委員会国際連携分科会
2	提案9 【P.10～11】	日本社会のグランドデザインー将来像と制度改革	1月30日（土） 13:30～17:00	社会学委員会フューチャー・ソシオロジー分科会
3	提案10 【P.12～13】	第7回 科学技術人材育成シンポジウムー科学技術人材育成の課題と解決策	2月13日（土） 13:00～17:00	土木工学・建築学委員会土木工学・建築学企画分科会

4	提案 1 1 【P.14~15】	若手研究者育成とジェンダー	3月5日(土) 13:30~17:00	第一部総合ジェンダー分科 会
5	提案 1 2 【P.16~17】	人間理解を支える心理学：心 理学は社会にいかに関 与できるか	3月20日(日) 13:00~17:00	心理学・教育学委員会社会 のための心理学分科会

注：学術フォーラム2件（提案6～7）を除く。
職員の人的支援はなし。

(提案6)

日本学術会議主催学術フォーラム「防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 共 催：東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会
3. 日 時：平成28年1月9日（土）13:00～17:30
4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 企画趣旨：

日本の防災・減災に関わる30の学会の代表が集まり、東日本大震災に対する反省と今後の抜本的な見直しに際し、本質的な議論を展開する連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を護る—30学会からの発信」を行ってきた。理学・工学の関連分野に加え、社会経済や医学を含めた幅広い分野の研究者が、分野の壁を越えて議論し、平成24年5月に政府に向けた共同声明、平成26年11月に国際社会に向けた共同声明と30学会の取組み紹介の冊子を発出するなど、様々な成果をあげてきた。その最終回（11回）として、学術フォーラムを開催し、東日本大震災後の約5年間を振り返り、大震災から得られた教訓とその継承について議論する。

このフォーラムをもって「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」は終了するが、後継組織として「防災学術連携体」(Japan Academic Network for Disaster Reduction) (案)を設立し、防災・減災の全般を対象に、より広い分野の研究者の参画を得ながら、今後の大災害などの緊急事態にも対応できる継続性のある学会ネットワークを育てていく予定である。

日本学術会議は平成26年2月に「緊急事態における日本学術会議の活動に関する指針」を制定し、平成27年7月に「防災減災・災害復興に関する学術連携委員会」を設置した。防災学術連携体はこの委員会と密接に連携して活動する予定である。

本フォーラムでは、この後継組織に期待される役割についても議論する。

5. 次 第：

13:00 挨拶・趣旨説明

司会：目黒 公郎（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

挨拶：大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長）

13:15 学協会連絡会のこれまでの活動と成果について

依田 照彦（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）

13:30 学会連携の取組み事例の発表

- ・日本集団災害医学会 20 周年記念大会
学協会連絡会に属する複数の学会が参加して 3 つのパネルを開催
- ・東日本大震災合同調査報告「原子力編」刊行記念 合同報告会
日本地震工学会、日本原子力学会、土木学会、日本機械学会、
日本都市計画学会、日本建築学会、日本地震学会、地盤工学会
- ・地球惑星科学連合と土木工学・建築学委員会との連携シンポジウム

13:45 ディスカッション I 「東日本大震災復興の課題と今後の方向」

コーディネータ：

米田 雅子（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学特任教授）

パネリスト：

浅見 泰司（日本学術会議連携会員、東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会幹事、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）他 1 名

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会/各学会代表 1 名 計 15 名

環境システム計測制御学会 空気調和・衛生工学会

計測自動制御学会 こども環境学会

土木学会 日本機械学会

日本建築学会 日本原子力学会

日本コンクリート工学会 日本造園学会

日本地域経済学会 日本都市計画学会

日本水環境学会 農業農村工学会

廃棄物資源循環学会

15:00-15:15 休憩

15:15 ディスカッション II 「東日本大震災に学んだ防災・減災と今後の方向」

パネリスト：

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会幹事 2 名

東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会/各学会代表 1 名 計 15 名

砂防学会 地域安全学会

地盤工学会 地理情報システム学会

日本応用地質学会 日本火災学会

日本活断層学会 日本計画行政学会

日本災害情報学会 日本自然災害学会

日本集団災害医学会 日本地震学会

日本地震工学会 日本地すべり学会

日本地球惑星科学連合

16:30 「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」終了の報告

「防災学術連携体」設立の発表

和田 章（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）

16:45 新規参加学会の取組み発表

17:25 閉会挨拶

田村 和夫（日本学術会議連携会員、千葉工業大学工学部建築都市環境学科教授）

(提案7)

日本学術会議主催学術フォーラム「乳幼児を科学的に育むー発達保育実践政策学の始動ー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：平成28年3月27日（日）13:00～17:00
3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

第22期マスタープランに教育学分野の「学術の展望」に基づき提出した大型重点研究計画「乳児発達保育実践政策学研究教育推進拠点の形成」に基づく提案である。現在、世界規模で、就学前の子どもに対するケアや幼児教育のあり方が問い直されてきている。こうした動向の中、平成27年7月1日に、東京大学大学院教育学研究科に、発達保育実践政策学センター（cedep）が設立された。

平成27年1月11日には、（正式発足前の）同センターが構想母体となった日本学術会議主催フォーラム『乳児を科学的に観るー保育実践施策学のためにー』が日本学術会議講堂で開催され、主に乳幼児発達の基礎研究と実践とをいかに有機的に架橋し得るかということに関して多様な視座を交えての議論を行い、相応の学術的・社会的反響を呼び得たと自負するところである。この度の企画はそのさらなる発展形として位置づけ得るものである。今回は、殊に乳幼児を取り巻く保育環境および保育政策の現状と今後のあり方に関して、発達基礎科学と保育実践両方の立場から、掘り下げて再考することを企図する。

5. 次 第：

・コーディネータ：

秋田喜代美（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

遠藤 利彦（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

村上 祐介（東京大学大学院教育学研究科准教授）

13:00-13:10 全体企画趣旨説明

秋田喜代美（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

13:10-14:50 第1部 保育環境のあり方を問い直す

司会総括：

遠藤 利彦（日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

話題提供：

「食環境の立場から」

三坂 巧（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

「音環境の立場から」

志村 洋子 (元埼玉大学教育学部教授)

「建築環境の立場から」

佐藤 将之 (早稲田大学人間科学学術院准教授)

「人的環境の立場から」

篠原 郁子 (国立教育政策研究所主任研究員)

指定討論：

無藤 隆 (白梅学園大学子ども学部教授)

14:50-15:05 休憩

15:05-16:45 第2部 保育政策のあり方を問い直す

司会総括：

村上 祐介 (東京大学大学院教育学研究科准教授)

話題提供：

「経済学と心理学からみた保育政策」

星野 崇宏 (慶應義塾大学大学院経済学研究科教授)

「福祉国家と保育・子育て政策」

稗田 健志 (大阪市立大学大学院法学研究科准教授)

「日本の子ども・子育て支援制度の課題」

池本 美香 (日本総合研究所調査部主任研究員)

「法律学からみた保育政策」

田村 和之 (広島大学名誉教授)

指定討論：

島田 桂吾 (静岡大学教職大学院講師)

16:45-17:00

全体討論：

大桃 敏行 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科長・教授)

多賀巖太郎 (東京大学大学院教育学研究科教授)

渡辺 はま (東京大学大学院教育学研究科特任准教授)

(提案 8)

公開シンポジウム「強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤—あなたの足元は大丈夫?—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球人間圏分科会、土木工学・建築学委員会学際連携分科会
2. 共 催：調整中
3. 後 援：一般社団法人日本応用地質学会、公益社団法人地盤工学会、一般社団法人日本地質学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本地震工学会、公益社団法人物理探査学会、公益社団法人日本地球惑星科学連合、公益社団法人日本不動産学会、公益社団法人日本都市計画学会、日本情報地質学会、日本第四紀学会、一般社団法人建設コンサルタント協会、国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター、国立研究開発法人防災科学技術研究所、地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境・地質研究本部地質研究所、一般財団法人地域地盤環境研究所、特定非営利活動法人地中熱利用促進協会、地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会（いずれも予定）
4. 日 時：平成 28 年 1 月 23 日（土）13：30～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

日本学術会議地球惑星科学委員会は、平成 25 年 1 月 31 日、提言「地質地盤情報の共有化に向けて—安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備—」を発出した。この提言は、第 21 期日本学術会議地球惑星科学委員会及び地球惑星科学委員会地球惑星科学企画分科会での審議結果を引き継ぎ、第 22 期日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会及び地球・人間圏分科会地質地盤情報小委員会での審議結果を通してとりまとめたものであり、提言の骨子は以下の 3 項目である。

 - ・地質地盤情報に関する包括的な法律の制定
 - ・地質地盤情報の整備・公開と共有化の仕組みの構築
 - ・社会的な課題解決のための地質地盤情報の活用の促進と国民の理解向上

シンポジウムでは、地質地盤情報が国民の暮らしの安全・安心の確保と国土強靱化、社会・経済の持続的発展のための必須の情報であることを確認し、地質地盤情報のアーカイブとその利用の現状と今後の問題点を議論する。そ

の中で、学術研究や技術開発の進展にも焦点を充てつつ、地質地盤情報の活用のために必要な、我が国の技術システム・社会システムの構築に言及し、地質地盤情報の活用推進のための法整備の必要性も議論する。本シンポジウムでは、研究機関、大学、民間企業、地方自治体など幅広い階層からの講演が行われ、特に大都市の強靱化のために必要な地質地盤情報の可視化と活用の重要性を強調する。地質地盤情報システムの社会実装化に向けた一里塚となり、その有用性を社会が広く認識し、関連する学術研究の成果が迅速に社会に橋渡しされることを願って本シンポジウムを開催する。

8. 次 第：

13:30-13:40 開会挨拶及び開催趣旨

氷見山幸夫*（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）

13:40-14:00 来賓挨拶

関係省庁担当官（調整中）

講演

テーマ1 地質地盤情報の整備と共有化、地下モデルの技術開発と活用事例

14:00-14:20 「日本における地盤情報の整備・共有化と活用事例」（仮題）

北田奈緒子（一般財団法人地域地盤環境研究所研究開発部門長）

14:20-14:40 「都市平野部における地質地盤情報－地下3次元構造モデル－」（仮題）

中澤 努（国立研究開発法人産業技術総合研究所地質情報研究部門情報地質研究グループ長）

テーマ2 住民に最も近いユーザー地方自治体の情報整備とハザードマップ

14:40-15:00 「防災に役立つ地質地盤情報」（仮題）

岩田 孝仁（静岡大学防災総合センター教授）

15:00-15:10 休憩

テーマ3 地質地盤情報の技術開発や社会・ビジネスでの応用事例

15:10-15:30 「地盤情報の活用と強靱で魅力のある都市設計」（仮題）

田村 和夫*（日本学術会議連携会員、千葉工業大学工学部建築都市環境学科教授）

15:30-15:50 「地中熱利用の普及に必要な地質地盤情報の共有化」（仮題）

笹田 政克（特定非営利活動法人地中熱利用促進協会理事長）

15:50-16:10 「土地利用に関する新たな展開－不動産の新しい価値の概念」（仮題）

中城 康彦 (明海大学不動産学部長・教授)

16:10-16:25 休憩

総合討論 学術研究成果の社会への迅速な橋渡し、地質地盤情報システムの社会実装化、及び利活用促進のための法整備

16:25-16:45 「地質地盤情報の課題と今後の取り組みー法整備を目指してー」(仮題)

佃 榮吉*(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所理事)

16:45-17:20 質疑応答

閉会挨拶

17:20-17:30 本シンポジウムの意義と今後の展開」(仮題)

依田 照彦*(日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案 9)

公開シンポジウム「日本社会のグランドデザイン—将来像と制度改革」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 社会学委員会 フューチャー・ソシオロジー分科会
2. 共 催：社会学系コンソーシアム
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 1 月 30 日（土） 13 時 30 分～17 時 00 分
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

21 世紀をむかえた世界は、社会の大きな転換期にさしかかっており、日本社会も、例外ではなく、グローバル化、少子高齢化、あるいは地球温暖化などのいくつかの長期的な趨勢は、早急に解決を必要とする社会問題を引き起こしているところ。格差の拡大、福祉制度の機能不全、排外主義の台頭、エネルギー政策への懸念など、枚挙にいとまがなく、こうした問題は、日本社会を大きく作りかえる必要性を提起しているといえる。

このシンポジウムは、社会学の立場から日本社会が直面する課題を確認し、将来に向けた大きな見取り図とそれに伴う制度作りについて議論するものである。

8. 次 第：

13:30～17:00

開会挨拶

吉原 直樹（日本学術会議連携会員、大妻女子大学社会情報学部教授、社会学系コンソーシアム理事長）

司会・オルガナイザー

山田 信行（駒澤大学文学部教授、社会学系コンソーシアム理事、日本労働社会学会会員）

宮本みち子（日本学術会議連携会員、放送大学教養学部教授、社会学系コンソーシアム理事、日本家族社会学会会員）

報告

1. 家族

船橋 恵子（日本学術会議連携会員、静岡大学名誉教授、日本家族社会学会会員）

2. 福祉

畑本 裕介 (山梨県立大学人間福祉学部准教授、日本社会福祉学会会員)

3. 地域

矢部 拓也 (徳島大学総合科学部准教授、地域社会学会会員)

4. 環境

長谷川公一 (日本学術会議特任連携会員、東北大学大学院文学研究科教授、環境社会学会会員)

討論者

新 雅史 (学習院大学講師、日本社会学会会員)

菊池 英明 (武蔵大学社会学部教授、福祉社会学会会員)

総括コメント

遠藤 薫* (日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授)

閉会挨拶

野宮大志郎* (日本学術会議連携会員、中央大学グローバル・スタディーズ研究科委員長・教授)

9. 関係部の承認の有無： 第一部承認

(*印の報告者等は、主催分科会委員)

(提案10)

公開シンポジウム「第7回科学技術人材育成シンポジウム—科学技術人材育成の課題と解決策」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会 土木工学・建築学企画分科会
2. 共 催：公益社団法人日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム
3. 後 援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、独立行政法人科学技術振興機構、日本経済団体連合会（いずれも申請予定）
4. 日 時：平成28年2月13日（土）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂 他2室
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

科学技術立国としての我が国の競争力の低下が懸念されている。我が国の将来を支える人材育成について、行政、教育機関、産業界など多方面からパネリストを招き、初等教育から社会人教育にいたるまでの幅広い分野における人材育成に関する課題を取り上げ、解決策を議論する。

8. 次 第：

総合司会 依田 照彦*（日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授、公益社団法人日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム副代表）

挨拶 有信 睦弘（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人理化学研究所理事、東京大学監事、公益社団法人日本工学会科学技術人材育成コンソーシアム代表）

基調講演「将来を支える人材育成に必要なもの」

講演者調整中

講演1 「社会人となるきっかけを与える初等中等教育の課題と解決策」

講演者調整中

講演2 「産業界から見た教育機関の課題と解決策」

講演者調整中

講演3 「社会の求める人材を育成する教育機関の課題と解決策」

講演者調整中

講演4 「行政から見た人材育成の課題と教育機関への期待」

講演者調整中

パネル討論

コーディネータ :

松瀬 貢規 (明治大学工学部教授、公益社団法人日本工学会フェロ
ー、公益社団法人日本工学会科学技術人材育成コンソ
ーシアム副代表)

パネリスト :

基調講演及び講演 1～4 の講演者 (調整中)

閉会挨拶 小峯 秀雄* (日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授)

8. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 1 1)

公開シンポジウム「若手研究者養成とジェンダー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会

2. 後 援：検討中（関係学協会の後援を依頼予定）

3. 日 時：平成28年3月5日（土）13：00～17：00

4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

人文・社会科学の研究者養成については、大学・大学院教育課程において、自然科学領域に比較して、これまで一定数の女子学生・女子大学院生が確保されてきた。そのために、男女共同参画のための学協会の連携も十分ではなく、またジェンダーの視点から若手研究者養成について必ずしも十分な議論がなされてこなかった。

しかし、日本社会学会や日本哲学会などで実施された若手研究者に対するアンケート調査などから、人文社会科学の分野においても、若手研究者養成に関して、男女共同参画の視点から必ずしも十分な対応が行われていない実態が明らかにされてきた。

今回のシンポジウムでは、若手研究者養成に関連して、これまで必ずしも十分ではなかった男女共同参画や男女平等、ジェンダーの視点をどのように反映させるのかをテーマに、これまでの人文社会科学系学協会の取り組みや当事者からの声の紹介に加えて、研究者養成に関係のある文部科学省、これまで研究者養成に関連して学協会の連携を推進してきた男女共同参画学協会連絡会からジェンダー視点からの若手研究者養成の実践について報告をお願いすることで、総合的にジェンダーの視点から若手研究者養成について検討することを目的とする。

7. 次 第：13：00～17：00

あいさつ・趣旨説明：

後藤 弘子*（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究科教授）

報告1 「若手研究者養成と男女共同参画」

調整中（文部科学省高等教育局）

報告2 「人文社会科学における若手研究者養成とジェンダー」

和泉 ちえ*（日本学術会議連携会員、千葉大学文学部教授）

報告3 「自然科学における若手研究者養成とジェンダー」

西村いくこ（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院理学研究科教授）

（交渉中）

報告4 「若手研究者から見た研究者養成とジェンダー」

若手アカデミー会員（交渉中）

討論

コーディネーター：

伊藤 公雄*（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院文学研究科教授）

まとめ

井野瀬久美恵*（日本学術会議第一部会員・副会長、甲南大学文学部教授）

（*印の報告者等は、主催分科会委員）

(提案12)

公開シンポジウム「人間理解を支える心理学：心理学は社会にいかに関
できるか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会
2. 共 催：日本心理学会、日本認知心理学会、日本基礎心理学会、日本教育心理学会（いずれも予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年3月20日（日） 13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

心理学が社会に貢献できるようになるためには、まず心理学に対する誤解を
解き、実際に心理学がどのような学問領域であり、どのように貢献し得るのか
を正しく社会に伝えていく「心理学の visible 化」が必須である。このため、
「人間理解を支える心理学：心理学は社会にいかに関
できるか」と題し、社
会に直接的に貢献しうる領域の心理学研究を紹介しながら、そこに通底する心
理学という科学研究領域の姿について明らかにしていく。

8. 次 第：

司会 坂本 真士*（日本学術会議連携会員、日本大学文理学部教授）
原田 悦子*（日本学術会議連携会員、筑波大学人間系心理学域教授）

13：00 趣旨説明

長谷川寿一*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究
科教授）

13：15 「法と心理学（仮）」

仲 真紀子*（日本学術会議第一部会員、北海道大学大学院文学研究
科教授）

14：15 「安全と心理学（仮）」

山岸 俊男（日本学術会議連携会員、一橋大学大学院特任教授）（交
渉中）

15：15 「高齢社会と心理学（仮）」

秋山 弘子（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）（交渉中）

16:15 パネルディスカッション「心理学が社会に役立つ存在としてあり続けるために」

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の報告者等は、主催分科会委員)

(提案 13)

公開シンポジウム「自然史教育における植物園の役割」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会
2. 共 催：近畿植物学会
3. 後 援：公益社団法人日本植物学会
4. 日 時：平成 27 年 11 月 7 日（土）13：00～17：00
5. 場 所：大阪市立大学理学部附属植物園
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

今日「持続可能な社会の構築」に向けて「自然との共生」や「生物多様性の保全と持続可能な利用」が重要な社会的目標となった中で、大学教育における生物学の参照基準がまとめられ、その中で野外実習の重要性が指摘された。大学が所有・管理している演習林や実験林、臨界実験所、植物園等の施設は、フィールドに直結した優れた教育の場として生かされることが期待されている。日本は海陸の自然と生物多様性に著しく恵まれた国であり、生物や生態系を実体験する野外実習は、今後、積極的に取り組むべき教育課題である。しかし、他の国内組織や国外植物園と比べたとき、日本の大学附属植物園が十分に評価され、生かされているとは言えない状況にある。また、今後大学教育にとどまらない社会教育施設としての利用効果も高いと推測される。

そこで、当分科会の目的である自然史学・古生物学の高度化に必要な、大学や研究所等附属組織の現状改善と研究教育体制を充実のための方策提言に向けて、大学附属植物園の1つである大阪市立大学理学部附属植物園において、あるべき植物園の役割を議論するため公開シンポジウムを開催する。

8. 次 第：
- 13：00 開会 あいさつ
西田 治文*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）
- 13：10 大学教育における生物学の参照基準、植物園に期待すること
西田 治文*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）
- 13：40 森の植物園：自然史教育の実践
植松千代美（大阪市立大学理学研究科附属植物園講師）
- 14：10 大学植物園の現状と展望

- 飯野 盛利 (大阪市立大学理学研究科附属植物園園長・教授)
- 14:40 (休憩)
- 15:00 自然のレフュージアとしての植物園
加藤 真 (日本学術会議連携会員、京都大学人間環境学研究所教授)
- 15:30 生態系インフラストラクチャー：自然環境保全再生分科会の提言とその反響
鷺谷いづみ* (日本学術会議連携会員、中央大学人間総合理工学部教授)
- 16:00 総合討論
(司会)
戸部 博* (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)
(コメンテーター)
大路 樹生* (日本学術会議連携会員、名古屋大学博物館教授)
松浦 啓一 (日本学術会議連携会員*、国立科学博物館名誉研究員)
馬渡 俊介 (日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)
- 17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案14)

公開シンポジウム「植物保護における外来種問題を考える」の開催について

1. 主催：日本学術会議 農学委員会 植物保護科学分科会

2. 共催：植物保護科学連合

3. 後援：なし

4. 日時：平成27年11月14日（土）13：00～17：30

5. 場所：東京大学農学部2号館化学第一教室

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

植物保護科学分科会は、研究活動の深化を図るため、植物保護を学術活動の基盤とする研究者集団である日本応用動物昆虫学会、日本植物病理学会、日本農薬学会、日本雑草学会、植物化学調節学会により設立された植物保護科学連合と連携し、これまで、様々な喫緊の課題を取り上げてシンポジウムを開催してきた。近年、種々の外来種の侵入が農業生産に大きな脅威となっていることから、被害の現状、管理上の問題点と今後の対策について議論を深め、今後の研究活動の新たな展開を図る。

8. 次第：

13：00 開会挨拶「シンポジウム開催にあたって」

上田 一郎*（日本学術会議第二部会員、北海道大学理事・副学長）

13：05～13：40

「日本の外来種対策について」

曾宮和夫（環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室長）

松本 宏*（日本学術会議連携会員、筑波大学執行役員・生命環境系長・教授）

13：40～14：15

「わが国の農業生産を脅かす外来雑草の侵入・被害実態と対策の方向性」

黒川 俊二（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター生産体系研究領域主任研究員）

座長：

富永 達（京都大学大学院農学研究科教授）

14：15～14：50 「根寄生雑草の潜在的危険性と生活環に着目した防除の試み」

杉本 幸裕（神戸大学大学院農学研究科教授）

座長：

- 平井 伸博 (京都大学大学院農学研究科教授)
- 14:50~15:25 「小笠原での除草剤による外来植物対策について」
葉山 佳代 (一般社団法人小笠原環境計画研究所研究員)
- 座長：
米山 弘一 (宇都宮大学バイオサイエンス教育センター教授)
- 15:40~16:15 「わが国に分布するキウイフルーツかいよう病菌の多様性 -外来系統の参入による複雑化-」
澤田 宏之 (国立研究開発法人農業生物資源研究所生物資源センター上級研究員)
- 座長：
宇垣 正志 (東京大学生命科学研究系教授)
- 16:15~16:50 「侵入害虫クリタマバチに対する伝統的生物的防除」
守屋 成一 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター病害虫研究領域専門員)
- 座長：
後藤 千枝 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター病害虫研究領域長)
- 16:50~17:30 総合討論
松本 宏* (日本学術会議連携会員、筑波大学執行役員・生命環境系長・教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案15)

公開第2回シンポジウム「沖縄に国立自然史博物館を！～次世代の博物館像を求めて～」開催について

1. 主催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会、自然史財の保護と活用分科会、進化学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会
2. 共催：シンポジウム「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会、琉球大学、沖縄美ら島財団、沖縄生物学会
3. 後援：沖縄県、平成26～28年度科学研究費補助金基盤(B)「自然史財の総合的研究」
4. 日時：平成27年11月14日(土) 15:00～18:30
5. 場所：沖縄県立博物館・美術館講堂(沖縄県おもろまち)
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

ユニークな地史を有する琉球列島は生物多様性のホットスポットである。この地の自然のすばらしさを研究し世界にアピールする拠点、すなわち国立自然史博物館が必要である。昨年12月に、沖縄に国立自然史博物館の設立を目指して第一回目のシンポジウムを開催した。前回のシンポジウムでは、多くの方々に沖縄への国立自然史博物館の設立を期待した夢を大いに語っていただいた。2回目となる今回のシンポジウムでは、既存の博物館を超える次世代の自然史博物館とはどのようなものなのかについて、沖縄に造るべき国立自然史博物館の姿を見据えつつ様々な視点から論じてみようと考えている。
8. 次第：

15:00～15:10 挨拶
大城 肇 (琉球大学学長)

15:10～15:20 趣旨説明
西田 睦* (日本学術会議連携会員、琉球大学理事・副学長)

15:20～15:40 是非とも沖縄にあって欲しい「生物多様性の科学」の拠点としての自然史博物館：一利用者の視点から
太田 英利 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授)

15:40～16:00 博物館における市民参加型データベースの構築とその成果

- 瀬能 宏 (神奈川県立生命の星・地球博物館企画普及課長)
- 16:00～16:20 ハクブツカンよ、人類文明の根幹たれ
 齋藤 成也* (日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所集団遺伝研究
 部門教授)
- 16:20～16:40 バイオミメティクスの宝庫としての自然史博物館
 下村 政嗣 (千歳科学技術大学理工学部教授)
- 16:40～17:00 学校教育と自然史博物館が連携した教育活動の可能性—沖縄の
 自然環境を活用した理数系人材育成
 杉尾 幸司 (琉球大学教育学部教授)
- 17:00～17:10 休 憩
- 17:10～18:20 パネルディスカッション
 司会：西田 睦* (日本学術会議連携会員、琉球大学理事・副学長)
 パネリスト：
 太田 英利 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授)
 瀬能 宏 (神奈川県立生命の星・地球博物館企画普及課長)
 齋藤 成也* (日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所集団遺伝研究
 部門教授)
 下村 政嗣 (千歳科学技術大学理工学部教授)
 杉尾 幸司 (琉球大学教育学部教授)
 西田 治文* (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授)
 林 良博* (日本学術会議連携会員、独立行政法人国立科学博物館館長)
 尾池 和夫 (京都造形芸術大学学長)
 古謝 隆 (沖縄県環境企画統括監)
- 18:20～18:30 閉会の挨拶：
 馬渡 駿介* (日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 16)

公開シンポジウム「東日本大震災による原子力発電所事故に伴う魚介類の放射能汚染の問題と今後の展望」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 食料科学委員会 水産学分科会
2. 共 催：水産海洋研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会、東京海洋大学、北里大学海洋生命科学部（いずれも予定）
3. 後 援：大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバイオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経済学会、日本藻類学会（いずれも予定）
4. 日 時：平成27年11月27日（金）10：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してから4年以上が経過した。この間、当初、沿岸魚介類に見られた高い放射性物質濃度は大幅に減少し、ほとんどのものが食品中の放射性物質の基準値を下回っているものの、福島県の本格的な漁業再開は未だ見通しが立っていない。この問題には、いわゆる風評被害も含めて種々の社会的要因が複雑に絡み合っていると考えられる。このような状況の下、本シンポジウムでは、まず、水圏および魚介類の汚染状況を明確にするため、福島県沿岸海域を中心に陸域からの影響も含めた水圏環境や、そこに生息する水生生物における放射性物質の推移に関するデータを紹介する。さらに、放射能汚染魚介類をめぐる種々の社会的背景を知るために、地元漁業従事者、流通業界、消費者などから話題提供して頂き、今後の福島県沿岸漁業の本格操業の再開に向けての議論を行う。
8. 次 第：

10：00－10：10 開会の挨拶
渡部 終五*（日本学術会議第二部会員、北里大学生命科学部教授）
座 長：加戸 隆介（北里大海洋生命科学部教授）
10：10－10：35 「海域の放射能汚染の実態」
神田 穰太（東京海洋大学大学院海洋科学系教授）

- 10：35－11：00 「福島県の水産物の放射能汚染の実態」
藤田 恒雄（福島県水産試験場漁場環境部部長）
- 11：00－11：25 「水産物の放射能汚染の実態」
森田 貴己*（日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人水産総合研究センター中央水産研究所海洋・生態系研究センター放射能調査グループ長）
- 11：25－11：50 「放射能汚染対策の現状と将来展望」
増田 尚宏（東京電力（株）福島第一廃炉推進カンパニープレジデント）
- 11：50－13：00 休憩（昼食）
座長：今田 千秋（東京海洋大学大学院海洋科学系教授）
- 13：00－13：25 「福島県の試験操業の現状」
柳内 孝之（福島県漁業協同組合連合会理事）
- 13：25－13：50 「福島復興へ向けての食品検査の重要性」
児玉 龍彦（東京大学アイソトープ総合センター長）
- 13：50－14：15 「非破壊放射能検査の可能性」
薄 善行（古河シンチテック/古河機械金属）
- 14：15－14：40 「漁業再開後の資源管理のあり方」
柴田 泰宙（東北区水産研究所資源海洋部底魚資源グループ任期付研究員）
- 14：40－15：00 休憩
座長：田和 正孝（関西学院大学文学部教授）
- 15：00－15：25 「地域経済の復興支援」
八木 信行*（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
- 15：25－15：50 「スーパーの現場から見た消費者ニーズと福島産水産物の課題」
谷川 満（サミット（株）鮮魚部マネジャー）
- 15：50－16：15 「市民と放射能問題」
栗田 和久（日本放送協会制作局ディレクター）
- 16：15－16：20 休憩
- 16：20－17：00 総合討論
司会：八木 信行*（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
- 17：00－17：10 閉会の挨拶
帰山 雅秀*（日本学術会議連携会員、北海道大学国際本部シニアアドバイザー・特任教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案17)

公開シンポジウム「第5回計算力学シンポジウム」の開催について

1. 主催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計応用分科会
2. 共催：日本機械学会、日本応用数理学会、日本計算工学会、日本シミュレーション学会、可視化情報学会、CAE 懇話会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合
3. 後援：自動車技術会
4. 日時：平成27年12月7日（月）10：00～18：00
5. 場所：日本学術会議講堂 他1室
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手が最新の成果を披露する。日本における広い分野の計算力学活用の成果を纏めて聞くことができる貴重な機会として、多数の方が参加し日本発のリーディングソフトウェアの発信や、日本の物づくり大国再興のための計算力学の役割などを議論する。

8. 次第：

総合司会：吉村 忍*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科副研究科長、システム創成工学専攻教授）

10：00 開会の辞

矢川 元基*（日本学術会議連携会員、原子力安全研究協会会長、前国際計算力学連合会長）

10：10-10：50 講演 1（日本応用数理学会）「腹足類の這行運動モデル」

岩本真裕子（明治大学総合数理学部現象数理学科特任講師）

10：50-11：30 講演 2（日本計算数理工学会）「境界要素法による電磁波動散乱問題の数値解法」

新納 和樹（京都大学大学院情報学研究科複雑系科学専攻助教）

11：30-12：10 講演 3（CAE 懇話会）「京コンピュータを用いた空力音響最適問題の多目的設計探査」

立川 智章（東京理科大学工学部第一部経営工学科講師）

- 12 : 10-13 : 40 昼休み
- 13 : 40-14 : 20 講演 4 (日本計算工学会)「Hamiltonian MPS 法のための壁境界条件の開発と嚙下解析への適用」
菊池 貴博 (武蔵野赤十字病院特殊歯科・口腔外科リサーチフェロー)
- 14 : 20-15 : 00 講演 5 (日本機械学会計算力学部門)「壁乱流の摩擦抵抗低減を目的とした生物規範型制御に関する直接シミュレーション」
岩本 薫 (東京農工大学工学部准教授)
- 15 : 00-15 : 20 休憩
- 15 : 20-16 : 00 講演 6 (日本計算力学連合)「計算力学と 3D プリントで開発するポーラス材料」
竹澤 晃弘 (広島大学大学院工学研究院機械システム・応用力学部門准教授)
- 16 : 00-16 : 40 講演 7 (日本シミュレーション学会)「分散メモリ並列粒子法ライブラリの開発とズームアップ津波遡上解析システムの構築」
室谷 浩平 (東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻特任助教)
- 16 : 40-17 : 20 講演 8 (可視化情報学会)「地球流体シミュレーションのための多変量データ可視化とビジュアル解析」
松岡 大祐 (海洋研究開発機構技術研究員、東京工業大学客員准教授)
- 17 : 20 閉会の辞
萩原 一郎 (日本学術会議第三部会員、明治大学特任教授・先端数理科学インスティテュート所長)

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「人工光合成」の開催について

1. 主催：日本学術会議化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、文部科学省研究費補助金新学術領域「人工光合成による太陽エネルギーの物質変換：実用化に向けての異分野融合」(AnApple)、研究開発法人科学技術振興機構人工光合成化学プロセス技術研究組合(ARPCChem)「二酸化炭素原料化基幹化学品製造プロセス技術開発（人工光合成プロジェクト）」
2. 共催：東京理科大学研究戦略産学連携センター
3. 日時：平成27年12月9日（水）13:00～18:10
4. 場所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

地球規模でのエネルギー・環境問題の解決及び化学工業における新たな産業創成として、人工光合成技術の確立が強く望まれている。人工光合成技術が確立できれば、化石燃料を消費せずに、太陽光をエネルギー源、水と二酸化炭素を原料として、水素、ガソリン、オレフィン等のソーラーフェュエルやソーラーケミカルを製造することができるようになる。そのため、世界中でソーラーフェュエル製造を目指したプロジェクトが走っており、数多くの国際会議が開催されている。日本においても文部科学省研究費補助金 新学術領域「人工光合成による太陽エネルギーの物質変換：実用化に向けての異分野融合」(AnApple)、科学技術振興機構「低エネルギー、低環境負荷で持続可能なものづくりのための先導的な物質変換技術の創出」(ACT-C)、人工光合成化学プロセス技術研究組合(ARPCChem)に代表される人工光合成研究プロジェクトが走っている。日本のプロジェクトの一つの特徴として産官学が協力して、人工光合成の確立に向けて取り組んでいることが上げられる。

そこで、本シンポジウムでは、プロジェクト総括、及び産官学を代表する研究者による講演を通して、日本における人工光合成研究の最前線を紹介し、参加者及びプロジェクト間の情報交換・意見交換をすることを目的とする。そして、オールジャパンとしての今後の方向性を探っていく。

7. 次第：

13:00-13:30 趣旨説明；人工光合成とは、世界の研究動向

工藤 昭彦*(日本学術会議連携会員、東京理科大学理学部応用化学科教授)

- 13:30-14:10 科研費新学術領域及び独立行政法人科学技術振興機構さきがけプロジェクトにおける人工光合成関連研究
井上 晴夫（日本学術会議連携会員、首都大学東京人工光合成研究センターセンター長、新学術領域「人工光合成」代表、さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究総括）
- 14:10-14:50 JST ACT-Cプロジェクトにおける人工光合成関連研究
國武 豊喜（公益財団法人北九州産業学術推進機構理事長、国立研究開発法人科学技術振興機構 ACT-C 研究総括）
- 14:50-15:30 NEDO 人工光合成プロジェクトの紹介と産業界から見た人工光合成技術
瀬戸山 亨（(株)三菱化学科学技術研究センター瀬戸山研究室室長、三菱化学（株）フェロー、人工光合成プロジェクトリーダー）
- 15:30 休憩
- 16:00-16:40 官側からの視点「人工光合成による水素と有用化学物質製造」
佐山 和弘（国立研究開発法人産業技術総合研究所太陽光発電研究センター首席研究員）
- 16:40-17:20 大学からの研究成果「光触媒材料を用いる水分解反応」
堂免 一成（東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻教授）
- 17:20-18:00 産業界からの研究成果「水と二酸化炭素からギ酸を合成する人工光合成技術の現状」
森川 健志（株式会社豊田中央研究所森川特別研究室室長）
- 18:00-18:10 閉会の挨拶
阿尻 雅文*（日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 19)

公開シンポジウム「国際光年記念シンポジウムⅡ ～光の科学と技術の新たな飛翔に向けて～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 IC0 分科会
2. 共 催：国際光年協議会、国立研究開発法人科学技術振興機構（いずれも予定）
3. 日 時：平成 27 年 12 月 11 日（金）14:00 ～ 17:30
4. 場 所：東京大学安田講堂（東京都文京区本郷 7-3-1）
5. 分科会の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

イブン・アル・ハイサムの光学研究から 1000 年、アインシュタインの一般相対性理論から 100 年、カオの光ファイバの提唱から 50 年など、2015 年（平成 27 年）は光にとって節目となる重要な年である。4 月に国際光年記念式典を開催し、1,100 人以上の参加者を得て成功裏に終了した。今般、2015 年（平成 27 年）の終了に当たり、国際光年の総括と今後の活動を展望するとともに、光の夢と魅力をあらためて広く市民に広く伝えることを目的として、記念シンポジウムを開催する。2014 年（平成 26 年）ノーベル物理学賞受賞者の赤崎勇博士には特別講演をお願いしている。

7. 次 第：

【プログラム】

14:00 開会挨拶

荒川 泰彦*（日本学術会議連携会員、国際光学委員会（IC0）会長、東京大学生産技術研究所教授）

14:10 日本学術会議挨拶

大西 隆（日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

14:20 国際光年の取組報告

・国際光工学会（SPIE）

谷田貝豊彦*（日本学術会議連携会員、国際光工学会（SPIE）会長、宇都宮大学オプティクス教育研究センター教授）

・日本物理学会

藤井 保彦（日本学術会議連携会員、日本物理学会会長、東京大学名誉教授）

・応用物理学会

河田 聡*（日本学術会議連携会員、応用物理学会会長、大阪大学大

学院工学研究科教授)

・電子情報通信学会

小柴 正則 (日本学術会議連携会員、電子情報通信学会会長、北海道
大学名誉教授)

15:10 特別記念講演「光と私の研究」

赤崎 勇 (名古屋大学特別教授、名城大学終身教授)

16:10 記念講演「光と宇宙」

村山 齊 (日本学術会議連携会員、東京大学国際高等研究所数物連
携宇宙研究機構機構長・特任教授)

16:50 閉会挨拶

相原 博昭 (日本学術会議第三部会員・部長、東京大学副学長・大学院
理学系研究科教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案20)

日本学術会議中部地区会議主催学術講演会「静岡大学で語る医学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
2. 共 催：静岡大学
3. 日 時：平成27年11月13日（金）13:00～16:00
4. 場 所：静岡大学浜松キャンパス（浜松市中区城北三丁目5-1）
5. 開催趣旨：

静岡県内には、東部と西部にはある大学病院が県庁所在地に存在していない中、民間病院がその役割を担っている。出産、育児といった人の成長及び加齢に、どのような影響を及ぼすのか。何が問題で、どのような解決・支援が可能なのか。

このシンポジウムでは医療を支えるさまざまな学問領域からのエビデンスを踏まえ、医学系部局を有しない静岡大学で医学を考え、実証的資料に基づき議論を行う。
6. 次 第：
 - (1) 13:00～13:10 開会挨拶
伊東 幸宏（静岡大学長）
 - (2) 13:10～13:20 主催者挨拶
高橋 雅英（日本学術会議第二部会員・中部地区会議代表幹事）
 - (3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告
丹生 潔（名古屋大学名誉教授、中部地区科学者懇談会幹事長）
 - (4) 13:30～14:15 講演
『宇宙飛行から学ぶ健康増進』
向井 千秋（日本学術会議第二部会員・副会長）
 - (5) 14:20～15:05 講演
『医療分野における画像解析システムについて』
川人 祥二（静岡大学工学領域教授）
鈴木 滋彦（日本学術会議連携会員・中部地区会議運営協議会委員）
 - (6) 15:10～15:55 講演
調整中
 - (7) 16:00～ 閉会挨拶
木村 雅和（静岡大学理事（研究・社会産学連携担当））